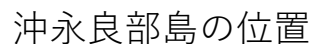


町民会議
令和6年度第4回目
参考資料

一般社団法人ツギノバ

島内に小学校は9校（知名町5校・和泊町4校）、中学校は4校（知名町2校・和泊町2校）、高校が1校（知名町）がある。厚生労働省による「平成25～29年人口動態保健所・市町村別統計」によると知名町の合計特殊出生率（2.26）は全国1741市町村で8番目となる高さを誇るが、人口1000人あたりの離婚件数は2.34件で全国平均（1.77件）を大きく上回っており、一人親世帯数が多くなっていることが見てとれる。



・合計特殊出生率と人口1000人あたりの離婚率の高さ

知名町は合計特殊出生率（2.26）は高い一方、人口1000人あたりの離婚率が高いため、世帯における子どもの数は多いのに、一人親世帯である率が高かったり、離婚後、地域内で頼れる人がいないために島を離れてしまうケースが多い。

・離島地域であるが故に限定された選択肢

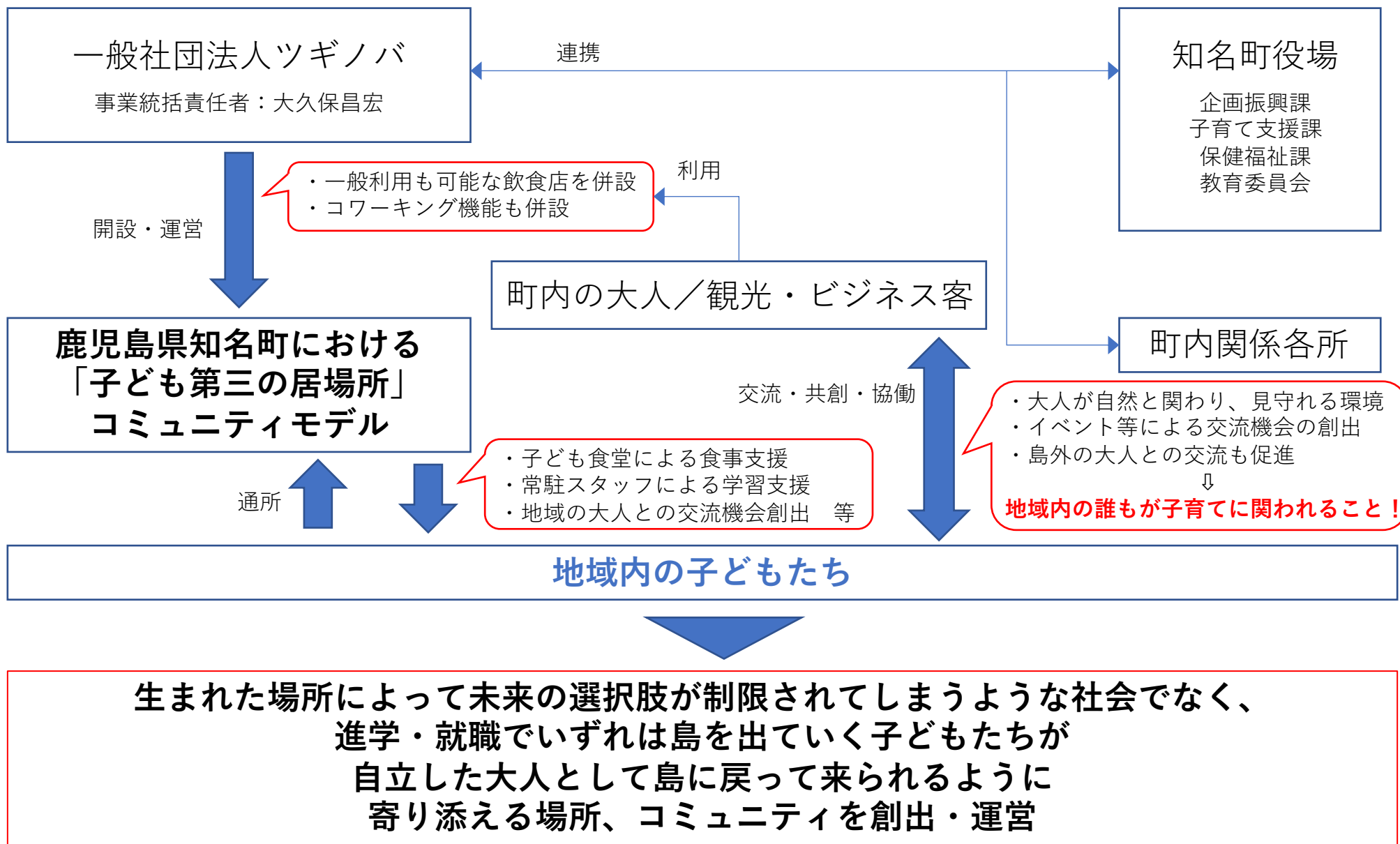
沖永良部島は島内に高校が1校あるものの、専門的な職種に将来就きたいと考えている子どもや学力が高い・低い等、将来の自己実現のための選択肢を広げるという目的から、早ければ15歳で島を出る子どもたちがいる。経済的負担も大きく、地域の人口減少や高齢化を進めることにもなり、誰もが地域の中で本土と遜色なく多様な将来を思い描ける環境が求められている。

・若年層世代の減少と高齢化による担い手の不足

上記のように15歳で島を出る子どもたちが多いため、15歳から34歳の若年層世代が減少傾向にあり、高齢化が進む地域内に基幹産業である農業等の担い手になれる人材が不足している。そのため、1人が複数の仕事をこなす必要が生じ、子どもたちを見られる大人が年々不足。地域一体となって子どもを育て、見守っていける体制がつかれなくなっている。

・子どもと大人との共創・協働機会の減少

上記のように大人が多忙を極めることで、子どもを見守れる環境が減少してしまい、結果として子どもたちが大人と何かを共創・協働できる機会が減少してしまっている。15歳というタイミングで島を出る可能性がある子どもたちが大人との共創・協働機会を得られないため、地域内でのつながりが希薄化し、離島後に再び島に戻ってくるという選択肢自体を狭めてしまうことになる。

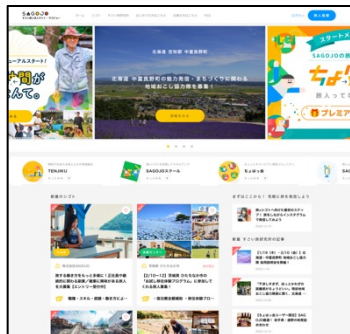


◆具体的な活動コンテンツ

①オープンキッチン

毎週平日の2日間（17～19時）、土日の1日（11～13時）に飲食店・コワーキングスペースをクローズした状態で無料で子どもが食事をできる時間を提供。
おもに小中学生の子どもを対象に、調理・配膳を常駐スタッフとともにやり、みんなで食卓を囲む。

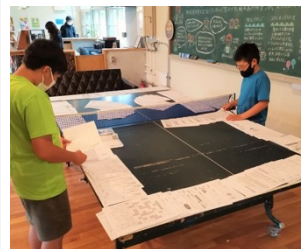
③キャリアイベント



全国各地に旅人を送客するサービスを展開しているSAGOJOと連携し、毎月1回、小・中・高校生を対象に全国各地でさまざまな働き方をしている“旅人”を招いて、自らのキャリア等について話をしてもらうイベントを開催。

②非認知能力向上を主目的としたイベント・ワークショップ

毎月1回の開催をイメージして、専門スタッフによる子ども向けイベント・ワークショップを開催。
非認知能力向上を目的に、子どもたちの自主性を高める内容を年間通じて継続的に実施していく。
専門スタッフは、北海道利尻島にて非認知能力向上を目的とした塾「利尻あそびどころ」を運営する廣瀬諒（ひろせ・りょう）が担当。

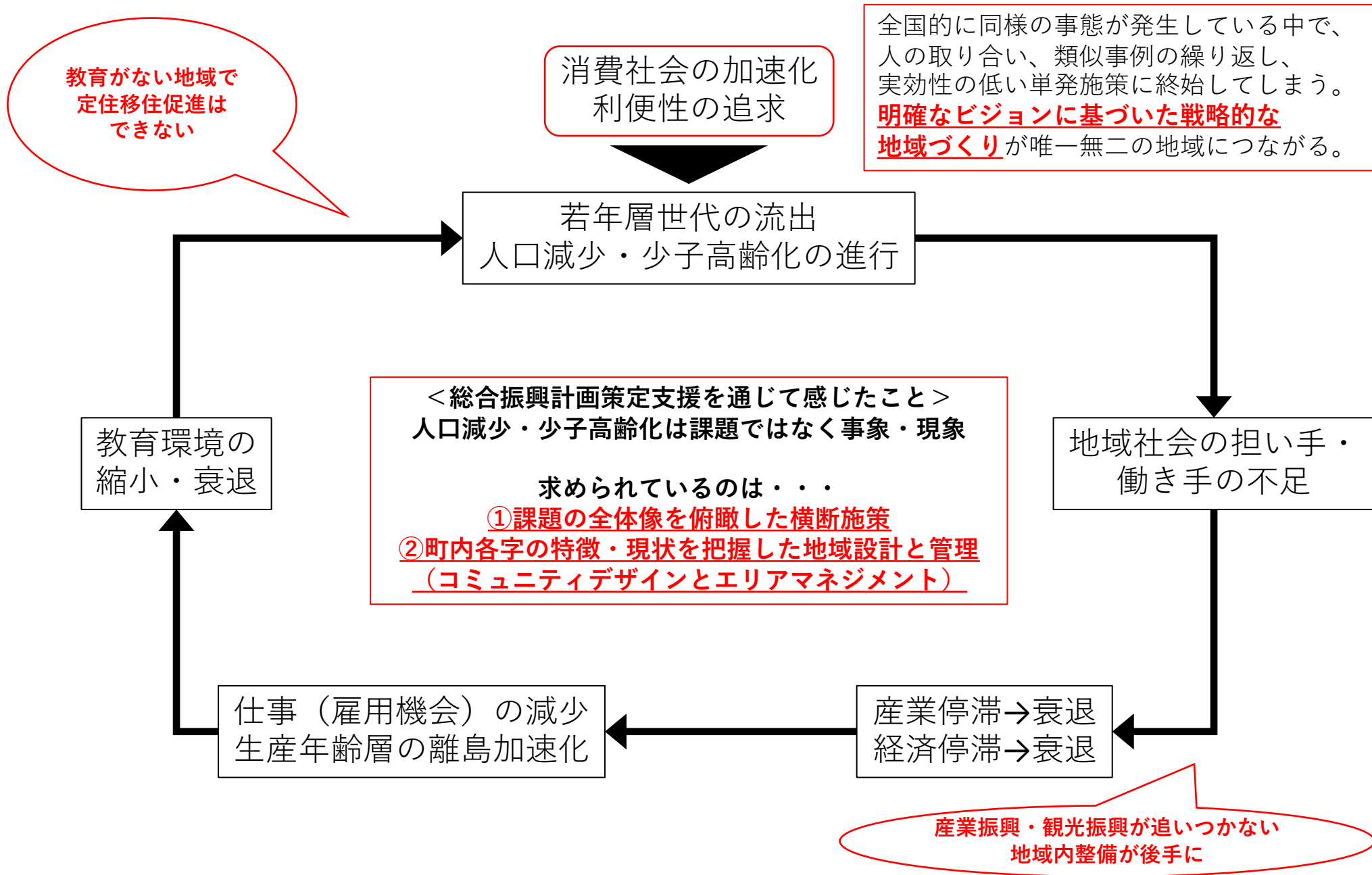


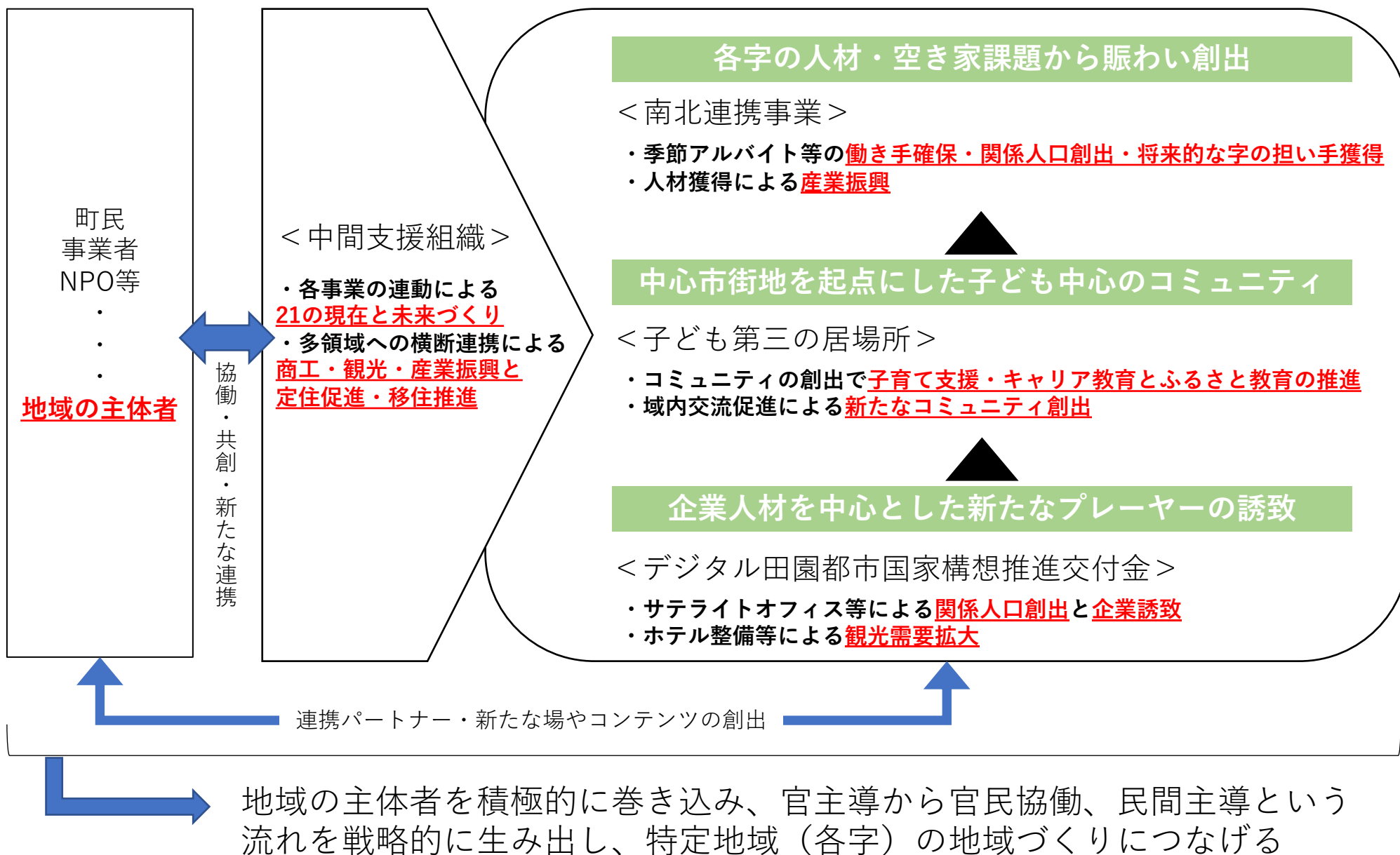
④各種イベント・ワークショップ

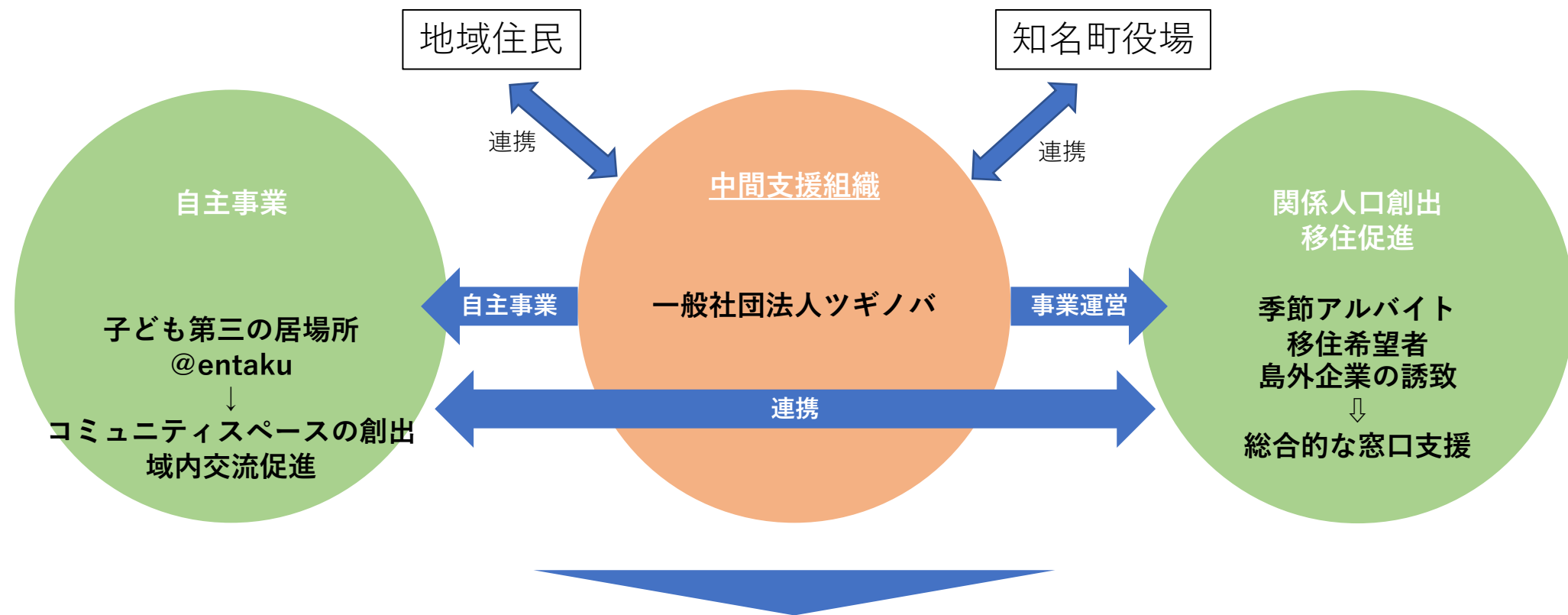
子どもだけでなく、地域住民の大人でも参加できるイベントやワークショップを不定期開催予定。



過去開催WS







21の暮らしを大切に、21の未来を創る子や孫が誇れるまちづくり

1. いつまでも暮らし続けたい環境の維持・整備
2. 持続していくためのコミュニティの創出・育成
3. 未来を支える産業競争力の強化と次代を担う人づくり

実践